

令和3年度

文部科学省事業

地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）

研究開発実施報告書（第3年次）

研究開発構想名

「恕」の精神を持って地域と協働する探究人の包括的育成



岡山県立和気閑谷高等学校

本報告書は、文部科学省の委託事業として、岡山県が実施した令和3年度「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」の成果を取りまとめたものです。

したがって、本報告書の複製、転載、引用等には文部科学省の承認手続きが必要です。

巻 頭 言

岡山県立和気閑谷高等学校
校長 藤 岡 隆 幸

これまでの3年間、文部科学省の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」の指定を受けて、魅力あるカリキュラムづくりと、それを実現する地域との協働体制づくりに取り組んでまいりました。

本校の社会的役割（スクール・ミッション）には、第一に外部の様々な資源の活用も行いながら、質の高い教育を通して、今後社会人として生きる生徒にとって、社会の変化に対応していく力や進路を切り開いていく力を育む「高校教育の機能」、第二に本校が地域コミュニティの拠点の一つであることにより、高校生と地域住民等が協働してまちづくりに取り組んだり、次代の担い手を育成したりするなどの「地域活性化（創生）の機能」があります。この両輪を回し、持続可能な地域と学校づくりに取り組んでいきたいと思えます。

本年度、本県では全県立高校が三つの方針（スクール・ポリシー）を定め、ホームページに公表しています。この方針は、スクール・ミッションに基づき、高校教育の入学選抜時から卒業時までの教育活動を一貫した体系的なものに再構成するとともに、教育活動の継続性を担保するために作成するものです。

本校では方針作成に当たり、学校運営協議会委員からの意見聴取、生徒へのアンケート実施及び生徒会代表生徒と教員の意見交換などを行いました。グラデュエーション・ポリシーは、校訓や学校教育目標とも関連づけて、

- ・幅広い知識・教養を身に付け、自身の成長を目指し、何事にも挑み続ける生徒
 - ・探究心を持ち、持続可能な地域社会の実現に向け積極的に行動できる生徒
 - ・「恕」（思いやり）の心を持ち、自分と他者の良さを認め、互いに高め合える生徒
- としました。

そのために学校では、カリキュラム・ポリシーに基づき、「何を学ぶか（学びの内容）」と「どのように学ぶか（学びの方法）」の両面から教育課程を組み立て、環境を整え、日々の教育活動を行います。地域を学びのフィールドとして行う総合的な探究の時間「閑谷學」や新たな学校設定教科・科目「地域協働探究」の推進、またこれまでの授業形態に組み合わせて、授業や家庭学習に新たな意味と可能性を見だし、生徒の自学共習を促進する一人一台端末活用の推進、さらに教育課程外での地域行事やボランティア活動への生徒の積極的な参画機会の創出に努めるとともに、教職員による地元小中学校や地域の取組への一層の理解と連携に努めていきたいと思えます。

また、その教育活動をよりよいもの、本校ならではの特色・魅力あるものとなるよう、和気町及び隣接する備前市や赤磐市の関係者等を委員とした学校運営協議会を中心に、地元の和気町から派遣されている複数の支援職員が教職員との連携・分担のもとコーディネートに当たり、対話と改善を通じて取組を進めていきたいと思えます。

そしてこれから本校の教育を受ける中学生とその保護者には、アドミッション・ポリシーを入学時点で求めるメッセージとして表しています。学校選択の時の判断基準や入学に向けた目標となるよう、わかりやすい情報提供に努めたいと思えます。

本報告書は3年間の研究成果をとりまとめたものです。本報告書を御高覧いただき、御教示いただきたいと存じます。最後になりましたが、本年度の本校の研究に御支援、御指導を賜りました関係者の皆様方に感謝申し上げます。

目 次

○	巻頭言	1
○	目次	2
I	概要	
1	学校概要	3
2	研究開発概念図	4
3	令和3年度研究開発実施計画書	5
II	3年間の総括と今後の計画	
1	3年間を振り返って	9
2	5つの研究開発項目総括	
	(ア) 各教科・科目における地域協働カリキュラム	11
	(イ) 地域協働デュアルシステムカリキュラム	12
	(ウ) 総合的な探究の時間における地域協働カリキュラム	14
	(エ) 各教科・科目等と連動する課外活動	15
	(オ) (ア)～(エ)を支援する体制の構築	16
III	定性データの分析	
1	学校アンケート結果	18
2	7つのチカラアンケート結果	22
3	高校魅力化評価システム診断結果	25
IV	研究開発の記録と検証	
1	各教科・科目における地域協働カリキュラム	
	(1) 長期ループリック	29
	(2) 学力向上に関する研究協議会	32
	(3) パフォーマンス課題	34
2	地域協働デュアルシステムカリキュラム	
	(1) 学校設定教科・科目「地域協働探究」の開講(令和3年度の内容)	35
	(2) 令和4年度以降のシラバス・年間計画	39
3	総合的な探究の時間における地域協働カリキュラム	
	(1) 総合的な探究の時間「閑谷學」	45
	(2) 単元Ⅰ 探究基礎 1年次前期	47
	(3) 単元Ⅱ 地域探究(グループ探究) 1年次後期～2年次前期	49
	(4) 単元Ⅲ 未来探究(個人探究) 2年次後期～3年次前期	51
	(5) 単元Ⅳ 卒業論文 3年次後期	53
4	各教科・科目等と連動する課外活動	
	(1) ボランティア・地域との交流	55
	生徒会活動/放課後学習支援/バンクギャラリー/English Fes 2021/和気駅前イルミネーション/ ワケタウンシネマ/聞き書き/姉妹校交流(韓国)/姉妹校交流(台湾)	
	(2) 他校・他地域主催イベントへの参加	60
	全国募集/被災地に学ぶ/全国高校生まちづくりサミット2021in尼崎/若手官僚×高校生	
5	支援体制の構築	
	(1) コンソーシアム(学校運営協議会)	62
	(2) 小中高接続部会	64
	(3) 産学官連携部会	66
	(4) 高大接続部会	68
	(5) 学習成果発表会	70
	(6) 高校生探究フォーラム	72
V	関係資料	
1	新聞記事	74
2	3年次卒業探究論文	78
3	運営指導委員会会議録	86

I 概要

1 学校概要

1 校訓

誠実・勤勉 自主・自律 敬愛・協調

2 本校が目指す学校像

- ・ 閑谷学校の歴史と精神を受け継ぎ、和気町・備前市・赤磐市等の関係者からなる学校運営協議会（コミュニティ・スクール）をもとに、学校と地域が「よりよい学校教育を通じてよりよい社会（地域）を創る」という目標を共有し、協働して、生徒一人一人の確かな成長と持続可能な社会の創り手を育むとともに、地域の活性化と人材育成に向けた地域コミュニティの核としての役割を果たす。
- ・ 論語教育、地域の課題解決などに挑む探究学習「閑谷學」や、ユネスコスクールとしてのボランティア活動や社会貢献活動など、特色ある教育実践を通じて、地域と協働して課題を探究し、進路を切り拓き、社会（地域）を創ることのできる人材を育成する。

3 教育目標

- (1) 誠実な心をもって最善を尽くし、学力と教養を深めよう
- (2) 自らを律し、主体的に考え、課題を発見し探究する人になろう
- (3) 自他を敬愛し、心を開いてコミュニケーションのできる「恕」の心を育もう

4 具体的な目標

(1) 【学びの質の更なる向上】

- ①ICT の積極的な活用により、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に取り組み、生徒の学力向上を図る。
- ②探究活動や体験活動、多面的な評価を通して、生徒の自己の在り方生き方を考え、学習意欲や地域貢献への意欲の向上を図るとともに、資質・能力をバランスよく育成する。
(知識・技能) 基礎的な知識・技能の習得を徹底し、実社会で活用できるようにする。
(思考力・判断力・表現力等) 授業や特別活動、部活動で主体的・対話的で深い学びの視点に基づいた探究的な学びを充実させ、生徒自らが主体性を持って取り組めるようにする。
(学びに向かう力・人間性等) 体験を増やし、チャレンジし、失敗に学ぶことも含め、豊かでたくましい心と規範意識・社会性を身につける。

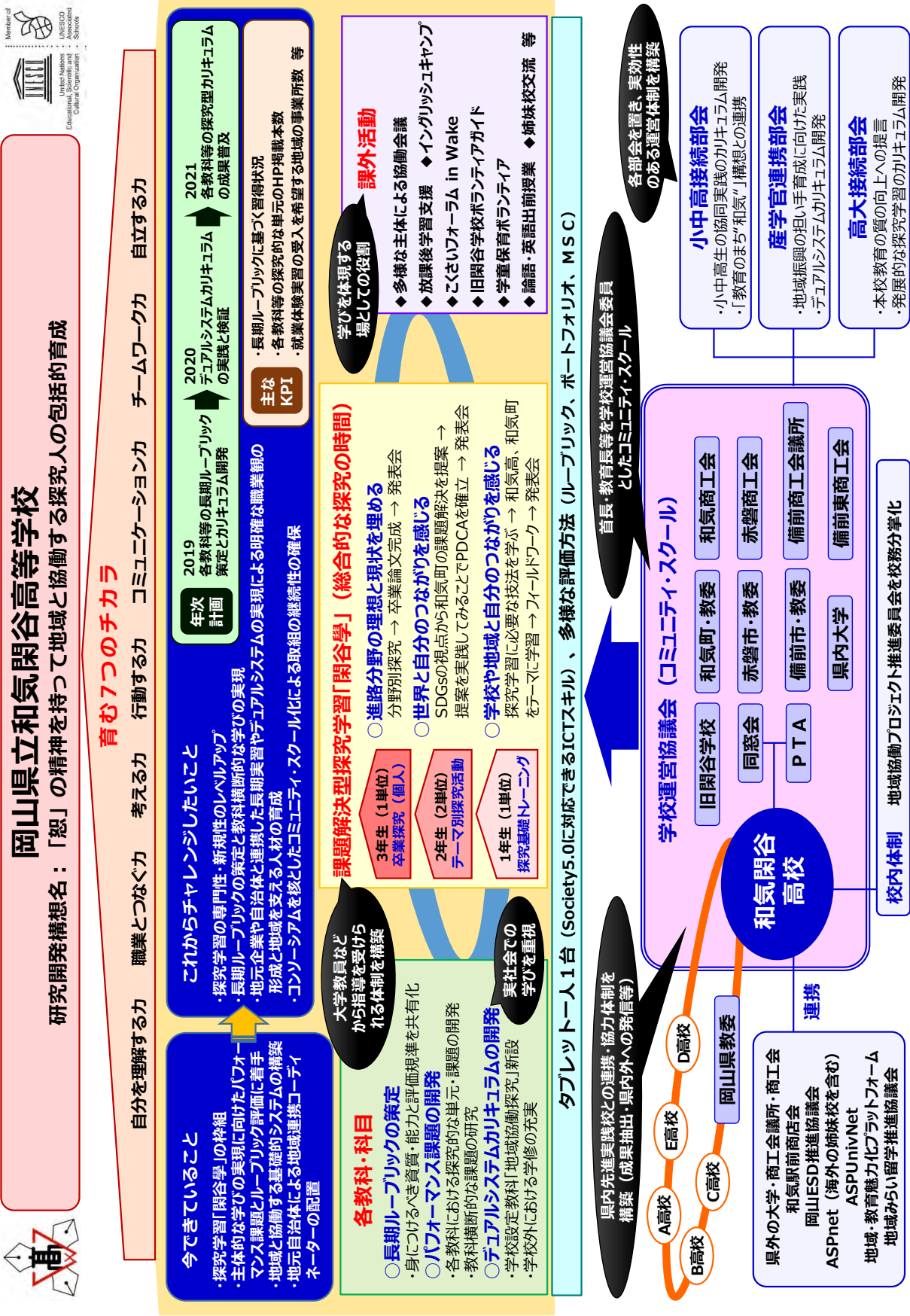
(2) 【地域との協働体制づくり】

- ①学校運営協議会等の運営とコーディネーターの配置を通して、学校と地域の持続発展に向けた計画的・持続的な連携・協働体制を構築する。
 - ②地域と連携した活動の機会（ボランティア活動や社会貢献活動、地域行事への参画、小中学生との交流等）の創出と、活動を支援する仕組みを作る。
- (3) 【生徒募集活動の充実】本校の教育内容と成果を積極的に発信するとともに、記念会館への寄宿機能の設置など県外生徒等の受入環境を整備する。
- (4) 【働き方改革の推進】社会人としての在り方生き方を率先垂範すべくスマートな働き方を心掛ける。従来かけていた時間の組織的な検証・再分配に取り組み、時間を生み出す。

5 設置学科および生徒数（令和3年5月1日現在）

学科	普通科			キャリア探求科			合計		
	男	女	計(定員)	男	女	計(定員)	男	女	計(定員)
1年	30	27	57(80)	17	13	30(40)	47	40	87(120)
2年	27	32	59(80)	7	29	36(40)	34	61	95(120)
3年	34	41	75(80)	21	17	38(40)	55	58	113(120)
計	91	100	191(240)	45	59	104(120)	136	159	295(360)

2 研究開発概念図



3 令和3年度研究開発実施計画書

令和3年1月27日

研究開発実施計画書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 岡山県岡山市北区内山下2-4-6
管理機関名 岡山県教育委員会
代表者名 教育長 鍵本 芳明 印

1 指定校名・類型

学校名 岡山県立和気閑谷高等学校
学校長名 藤岡 隆幸
類型 地域魅力化型

2 研究開発名

「恕」の精神を持って地域と協働する探究人の包括的育成

3 研究開発の概要

本構想は、指定校が規定する「地域と協働する探究人」育成を目的とし、卒業までに身につけさせたい資質・能力「7つのチカラ」の向上を目標とする。そのために、(ア)各教科・科目における地域協働カリキュラム、(イ)地域協働デュアルシステムカリキュラム、(ウ)総合的な探究の時間における地域協働カリキュラム、(エ)各教科・科目等と連動する課外活動、(オ)(ア)～(エ)を支援する体制の構築の5点について研究開発する。

4 学校設定教科・科目の開設、教育課程の特例の活用（□で囲むこと）

- ア 学校設定教科・科目を開設している
イ 教育課程の特例の活用している

5 事業の実施期間

契約日～ 令和4年3月31日

6 令和3年度の研究開発実施計画

(ア) 各教科・科目における地域協働カリキュラム

- 各教科の長期ルーブリックを基に、各單元における7つのチカラとの関連を記載した各教科・科目のシラバスを再検討するとともに、7つのチカラ育成の卒業時までの計画を学校全体で共通理解し、実践する。
- 学力向上に関する研究協議会を公開する。
- 教員全員がパフォーマンス課題の実践報告書をホームページにアップする。

(イ) 地域協働デュアルシステムカリキュラム

- 学校設定教科・科目「地域協働探究」を開講し、地域の事業所において通年の長期就業体験実習等を実施する。
- 令和4年度以降の普通科協働探究系新教育課程における「地域協働探究」のシラバス

及び年間指導計画、評価規準、教材を作成する。

(ウ) 総合的な探究の時間における地域協働カリキュラム

- ・前年度の検証を踏まえて年間指導計画を作成し、実施後検証する。
- ・1年次前期：外部人材を活用しながら探究手法を学ぶ過程を充実させる。
- ・1年次後期～2年次前期：「健康、教育、歴史文化、ビジネス、自然科学」の分野別に地域課題に関わるグループ探究を行う。テーマごとに専門家等からの指導を受け、2市1町での実践を通して課題を深める。7月に探究学習発表会を実施し公開する。
- ・2年次後期～3年次前期：各自の進路分野について現状と理想の差を埋める提案を個人探究で進める。テーマに応じて、大学や自治体、企業から情報収集し、SDGsの達成を意識した探究活動を行う。7月に探究学習発表会を実施し公開する。
- ・3年次後期：個人探究の内容を論文形式でまとめ、卒業探究論文集を作成する。

(エ) 各教科・科目等と連動する課外活動

- ・これまで継続しているボランティア活動や地域との交流活動に加え、地域から要請のあった様々な活動に積極的に参加する。
- ・近隣高校等（他県の地域協働推進校を含む）の探究学習発表会等（オンライン開催も含む）に生徒を派遣する。

(オ) (ア)～(エ)を支援する体制の構築

- ・コンソーシアム（＝学校運営協議会）を年3回程度、各部会を年3回程度開催する。また、各市町担当者等による連絡会を隔週程度開催し、本研究開発の目的・目標を踏まえながら連携先との連絡調整を行う。
- ・管理機関においては、県内先進実践校との連絡協議会を実施し、先進的な高等学校の取組の成果を高校間で共有するとともに、探究フォーラムを開催する。
- ・指定最終年度のため、生徒による本事業の研究発表会（運営指導委員会と兼ねる）を公開する。
- ・学校ホームページに本研究開発専用のサイトを開設し、情報発信を充実させる。

<添付資料>

目標設定シート、令和3年度在籍生徒の教育課程表、学校設定教科・科目の設定に関する説明資料

7 事業実施体制

課題項目	実施場所	事業担当責任者
7つのチカラ育成の年間計画	校内	教務課研究開発室
・長期ルーブリックの再検討	校内	各教科主任
学力向上に関する研究協議会	校内	教務課研究開発室
パフォーマンス課題の実践報告	本校ホームページ	各教科・科目担当者
学校設定教科・科目「地域協働探究」	校内外	教育課程検討委員会 産学官連携部会主担当者
総合的な探究の時間「閑谷學」	校内外	各年次閑谷學担当者
探究学習発表会	校内	閑谷學・LHR委員会
近隣高校等との探究学習交流	校内外	企画主任 ユネスコスクール係
コンソーシアム及び各部会	校内	企画委員会
・学校運営協議会	校内	企画主任
・各部会、連絡会	校内	各部会主担当者
県内先進実践校との連携・協力体制の構築	県庁等	県教育庁高校教育課
運営指導委員会	校内	県教育庁高校教育課
地域協働事業成果発表会	校内	地域協働推進プロジェクト委員会
本研究開発専用のサイト開設	本校ホームページ	教務課情報・広報担当係

運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
石原 達也	岡山NPOセンター 代表理事	〔学識経験者〕 地域における社会貢献活動の手法の知見
岡山 一郎	山陽新聞社編集局 編集委員室長	〔学識経験者〕 地域課題等に関する知見
神崎 浩二	岡山県経済団体連絡協議会 事務局長	〔学識経験者〕 産業界が高等学校に求める教育の 在り方に関する知見
草野 浩一	岡山県総合政策局 地方創生推進室長	〔関係行政機関の職員〕 地方創生に関する県行政からの知見
徳岡 卓也	ベネッセコーポレーション 学校カンパニー 西日本教育支援 推進部 中四国支社長	〔学校教育に専門的知識を有する者〕 全国における地域との協働による 教育活動や教科横断的な学習の手 法に関する知見
前田 芳男	東海大学経営学部観光ビジネス学科 教授 ※令和3年度から就任予定	〔学識経験者〕 地域との協働による教育活動の手 法に関する指導

高等学校と地域との協働によるコンソーシアム（＝学校運営協議会）の体制

機関名	機関の代表者名
和気町	町 長・草加 信義
和気町教育委員会	教育長・徳永 昭伸
和気商工会	会 長・川上 健二
赤磐市	市 長・友實 武則
赤磐市教育委員会	教育長・土井原 康文
赤磐商工会	副会長・中原 哲哉
備前市	市 長・田原 隆雄
備前市教育委員会	教育長・奥田 泰彦
備前商工会議所	会 頭・寺尾 俊郎
備前東商工会	会 長・横山 忠彦
特別史跡旧閑谷学校顕彰保存会	理事長・國友 道一
岡山大学	教師教育開発センター副センター長・高旗 浩志
和気閑谷高等学校	校 長・藤岡 隆幸
和気閑谷高等学校PTA	会 長・國塩 尚志
和気閑谷高等学校同窓会	会 長・内山 登

カリキュラム開発専門家、海外交流アドバイザー、地域協働学習実施支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発等専門家	江森 真矢子	一般社団法人まな びと代表理事	週2日6時間
カリキュラム開発等専門家	梅村 竜矢	和気町立和気中学 校非常勤講師	週2日6時間
地域協働学習実施支援員	松穂 亜花音	和気町地域おこし 協力隊・支援職員	常勤

8 課題項目別実施期間

業務項目	実施期間（契約日 ～ 令和4年3月31日）											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
7つのチカラ育成 の年間計画	シラバス・単元配列表 作成								実施・検証			
学力向上に関する 研究協議会			○					○		○		

学力向上に関する研究協議会			○					○		○		
パフォーマンス課題の実践報告	←			実践						掲載		
学校設定教科・科目「地域協働探究」	←				実施							
	←				新教育課程に向けて事前協議							
・2年次生「就業体験実習」					○						○	○
1年次生閉谷學												
・探究手法を学ぶ	←			ミニ探究実践								
・グループ探究						テーマ設定		実践				
2年次生閉谷學												
・グループ探究	←			実践								
・個人探究						テーマ設定		実践				
3年次生閉谷學												
・個人探究	←			実践								
・卒業探究論文集							執筆		完成			
探究学習発表会				○							○	
				(2・3年次探究学習発表会)						(1・2年次中間発表)		
近隣高校等との探究学習交流					○		○	○	○	○		
コンソーシアム及び各部会												
・学校運営協議会			○				○				○	
・各部会			○				○			○		
・連絡会	←						隔週程度で開催					
県内先進実践校との連携・協力体制の構築			○						○			
運営指導委員会					○						○	
地域協働事業成果発表会											○	
本研究開発専用のサイト開設	←						随時更新					

9 知的財産権の帰属（プロフェッショナル型のみ）

10 再委託の有無 再委託業務の有無 有・無

11 所要経費 別添のとおり ※課税・免税事業者：課税事業者・免税事業者

【担当者】

担当課	岡山県教育庁高校教育課	T E L	086-226-7578
氏 名	神田 慶太	F A X	086-224-2535
職 名	主任	e-mail	kanri-koukou@pref.okayama.lg.jp

II 3年間の総括と今後の計画

1 3年間を振り返って

●研究開発開始以前の地域協働

本校は、キャリア探求科で開設されている専門科目での実習や、活発なボランティア活動によって生徒が地域と関わる機会が比較的多い環境にあった。町行政との連携は平成25年度、和気町役場職員からの働きかけが始まった。町と合同で高校と地域の連携に関する職員研修を行い、翌春から町派遣の支援職員（コーディネーター）が職員室に常駐することとなった。

平成26年度には、全HR教室に単焦点プロジェクタとスクリーンが配置され、ICTの活用とともに、「学習目標の明示」と「振り返りの実施」、外部講師による研修などの授業改善の取り組みが加速。同時に、総合的な学習の時間「閑谷學」を、進路探究を中心としたものから地域課題に取り組む学習にリニューアルした。

翌27年度には評議委員に加え魅力化推進委員を加えた魅力化推進協議会が発足し、本校のあり方を地域の関係者とともに構想することを始めている。また、この頃から部活動や閑谷學の実践の場として、和気町内でのイベントの一部を生徒が企画・運営するといったことが行われるようになった。本校の研究開発計画には以上のような下地がある。

●3年間の研究開発計画

令和元年度からの3年間、「『恕』の精神を持って地域と協働する探究人の包括的育成」をテーマに掲げ、3つの柱である「各教科・科目」「総合的な探究の時間『閑谷學』」「課外活動」を通して7つのチカラを育むカリキュラムづくりに取り組んだ。

各教科・科目では主体的な学習者の育成を目指す、長期ルーブリックの策定とパフォーマンス課題の実践、授業改善に向けた研究会の開催（計画（ア））、新しい学校設定教科科目である「地域協働探究」のカリキュラムづくり（計画（イ））を計画。閑谷學では、より多くの大学や地域関係者に関わってもらえるカリキュラムづくり（計画（ウ））を通して、探究の質の向上に加え、地域関係者の変容も目指した。また、教科・科目・閑谷學の発展、実践の場として、課外活動の機会を積極的に活用することとし（計画（エ））、ここでも地域関係者にも影響を与えることを企図した。

さらに、上記（ア）～（エ）を支える持続可能な体制の構築（計画（オ））を研究開発計画に加えた。本校にとっての地域を和気町だけでなく備前市、赤磐市を加えた2市1町と再定義し、関係者によるコンソーシアムとしての学校運営協議会を設置してコミュニティ・スクールへと移行し、研究開発終了後も協働して持続的な学校づくりと地域づくりに取り組み続けることがそのゴールである。

●成果と課題

研究開発計画（ア）～（オ）それぞれの実施状況、成果、課題、今後については次項に詳細を記すこととし、ここでは3年間の取組による生徒の成長と、本校の今後の課題について述べる。

3年間の事業の大きな成果は、地域との新たな繋がりが生まれ、さらに深まったことだ。2市1町を中心としたコンソーシアムとしての学校運営協議会の設置や、コーディネーターの配置支援をしてもらうことで、地域の様々な資源とつながるカリキュラムづくりを行うことができた。

その結果、生徒の主体性・自己肯定感の上昇がアンケート結果からも見られる。毎年、探究学習発表会後に行っている「7つのチカラアンケート」で、現3年次生の1年次から3年次までの結果で特に向上したのものとして、「やるべきことや問題があるとき、今の自分の状況を分析する」「実行した後は、それが確実にできたかを見直し、改善する」「よりよい解決策を見つけるために、できるだけ多くの情報を集める」「自分の考えや気持ちをうまく表現できる」「人に対して、自分から働きかけて、理解や協力を得る」が挙げられる。

これらの項目は、概ね自らの働きかけによるものであり、その伸びは、日々の本校での学校生活をはじめ、地域との関わりをベースとした「閑谷學」での主体的（能動的）な学びが大きく影響しているものと思われる。また、本事業で行った「高校魅力化評価システム」のうち現3年次生の3年間の推移で特に変化があったものとして、主体性に関わる項目の伸びが顕著に表れており、自己肯定感も高まっていると言える。

その一方で、課題は「活動の持続可能性」である。組織体制についてはコンソーシアムをさらに有機的に運営することや、コーディネーターの雇用の維持、関わりの強化が必要だ。また、魅力的なカリキュラムの継続・改善をはかって、地域・学校・生徒・保護者などステークホルダー全体の満足度を向上させていく必要がある。

本校では、生徒数の減少という小規模校が抱える問題にも直面しており、本校で学ぶことの魅力を地域にどう伝えていくかも課題となっている。コンソーシアムを核に、学校と地域が一体となり、まずは現在在学中の生徒たちの生き生きとした学びと進路保障に尽力し、本校が地域にとってなくてはならない学校であるという証明を生徒の姿から発信していきたいと考えている。

この3年間の事業指定で挑戦したことをこれからは生かし、より地域に密接した活動を続けて、地域ニーズを反映した、選ばれる学校にしていきたい。

2 5つの研究開発項目総括

(ア) 各教科・科目における地域協働カリキュラム

【仮説】

各教科の単元と「7つのチカラ」をつなげた長期ループリックで身につけるべき資質・能力の到達点とその評価規準を生徒と教師が共有し、教科横断的なパフォーマンス課題の設定、地元の特長的な教育資源の活用、地元企業と連携した実習や本物に触れる体験を取り入れた単元開発により主体的な学習者を育成することができる。

●計画と実施状況

- ・ 各教科の長期ループリックを基に、各単元における7つのチカラとの関連を記載した各教科・科目のシラバスを再検討するとともに、7つのチカラ育成の卒業時までの計画を学校全体で共通理解し、実践する。
 - R1：長期ループリックを作成。R2：全生徒の端末へ配布して、振り返りなどに活用を開始。R3：長期ループリックをもとに単元ループリックを作成し評価を行っている教職員が、R2の3割からR3は6割弱に増加。
- ・ 学力向上に関する研究協議会を公開する。
 - 以下を公開した。R1：6・11・1月に学力向上評価委員会開催、テーマは「一人ひとりをいかす教室づくり」。R2：11月に研究授業及び研究協議会を実施、テーマは「生徒同士のつながりを大切にする教室づくり」。R3：11月に研究授業及び研究協議会を実施、テーマは「ICT活用」。
- ・ 全員がパフォーマンス課題の実践報告書をホームページにアップする。
 - 全員が公開には至らなかったが、R1：33件、R2：29件、R3：28件(2月末現在)を本校のウェブサイト公開した。

●成果

- ・ 教科横断型の授業、パフォーマンス課題ともに7割以上が実施（R3「授業工夫アンケート」より）。授業の質向上が計られている。
- ・ 現3年次生の3年間の推移では、主体性に関わる項目の伸びが顕著に表れ、自己肯定感も高まっている（「高校魅力化評価システム」より）。

●課題

- ・ 身につけるべき資質・能力（＝7つのチカラ）の到達点を生徒教師が共有することで生徒が主体的な学習者となることを狙いとして長期ループリックを作成したが、生徒と共有し全員が使えるものとして定着するまでには至っていない。生徒が主体的に活用でき

る手だてが必要である。

●計画と目標設定は適切だったか

- ・「地元の特長的な教育資源の活用、地元企業と連携した実習や本物に触れる体験を取り入れた単元開発」について、「閑谷學」、「地域協働探究」以外にも商業科目等で多数の実践があるが、検証計画がなくデータを基にした検討がなされていない。
- ・育てるべき資質能力として設定した「7つのチカラ」は、本校の目指す生徒像を教員が検討して設定したものではなく、大阪府教育委員会が平成 23 年に公開した指標を活用しており、本校の身につけさせたい力とのずれが生じてきた。

●次年度以降の計画（何を活かし、何をやめるか）

- ・長期ルーブリックを基にした単元ルーブリック：引き続きブラッシュアップと浸透を図る。
- ・パフォーマンス課題の実践報告書公開：今年度のような形での全員の取組は終了する。
- ・学力向上に関する研究協議会：高旗浩志氏に引き続き指導を依頼し、授業改善・学力向上に取り組む続ける。
- ・地元の特長的な教育資源の活用、地元企業と連携した実習や本物に触れる体験を取り入れた単元開発：地域協働探究、閑谷學では引き続き単元開発に取り組み、その他教科・科目については商業科目等との教科横断型授業をはじめ、適宜取り入れていく。
- ・育てる資質・能力と評価指標：見直しを行い「7つのチカラ」以外の指標を検討する。

（イ）地域協働デュアルシステムカリキュラム

【仮説】

2年次の夏・冬・春に各5日間の就業体験実習を行い、3年次に学校設定教科「地域協働探究」を設定するデュアルシステムカリキュラムの開発により、求められる力への理解や職業意識を深め、7つのチカラを向上させる意欲を引き出し、進路目標を自覚し、将来の職業を自らの意志と責任で選択する生徒を育成することができる。

●計画と実施状況

- ・学校設定教科・科目「地域協働探究」を開講し、地域の事業所において通年の長期就業体験実習等を実施する。
 - R1：開講準備、地域の協力事業所の開拓を開始。R2：引き続き準備および事業所開拓。また、2、3月に次年度履修予定者が5日間ずつの就業体験実習を行った。
 - R3：開講。新教育課程への移行措置期間として、学科を問わず3年次就職希望者

の中から13名が受講。全6回の長期就業体験実習（コロナの影響で、うち2回は校内での就業体験）を実施すると同時に、プロジェクトに取り組んだ。

- ・令和4年度以降の普通科協働探究系新教育課程における「地域協働探究 $\alpha \cdot \beta$ 」のシラバス及び年間指導計画、評価規準、教材を作成する。
 - R1：カリキュラム作成を開始。R2：シラバスおよび年間指導計画の作成。「体験を経験に変える力をつける」というコンセプトが固まった。R3：R4以降に開講する「地域協働探究 $\alpha \cdot \beta$ （6単位）」の試行として「地域協働探究（2単位）」を開講。開設計画書及びシラバスを作成、授業を行いながら教材を作成。

●成果

- ・地域との関係性：受け入れ事業所が拡大し、地域の関係者の理解が広がった。
- ・生徒の意識：実習において必ず事業所の方との対話（インタビュー）の時間を設けたことで、視野の拡大がみられた。就職の採用選考において、受講者は他と比べて順調に決定する傾向があった。
- ・生徒の資質能力の伸び：教員が問いかけながら振り返りをするスタイルから、段階的に生徒自身がファシリテートできるよう問いかけの仕方等を指導し、生徒同士でもお互いに問いかけ合い、言語化（体験を経験に変える）ができるようになった。
- ・令和4年度からの「地域協働探究 α 」の開講準備が進んだ。

●課題

- ・学校側が願う関係から、地域の関係者と理念を共有し「ともに育てる」関係を構築し、持続可能な体制へと変容するまでには至っていない。

●計画と目標設定は適切だったか

- ・当初の想定（2年次に実習、3年次に地域協働探究）よりも拡大したカリキュラム（2・3年次で地域協働探究 $\alpha \cdot \beta$ ）となり、試行期間においても生徒の進路意識の深化や、自己理解に基づく進路選択がみられたことから、適切であったと言える。

●次年度以降の計画（何を活かし、何をやめるか）

- ・普通科協働探究系2・3年次の全員履修科目になり、単位数を増やして体験学習の時間を確保する。
- ・今年度コロナのため実施できなかった事業所の方を招いての発表会や社会人講話を開催する。また、地域でのプロジェクト活動の内容を充実させる。
- ・コロナに対応した体験機会の在り方を検討する（例：オンライン交流）。

(ウ) 総合的な探究の時間における地域協働カリキュラム

【仮説】

探究学習の過程で生徒が大学関係者、地元企業・自治体の従業員・職員等から適宜直接指導を受けられる体制を構築することで、探究の専門性や新規性が高まり、探究活動の質が深まるとともに、探究活動に関わる地域関係者の変容も期待できる。

●計画と実施状況

- ・前年度の検証を踏まえて年間指導計画を作成し、実施後検証する。
- ・1年次前期（探究基礎）：外部人材を活用しながら探究手法を学ぶ過程を充実させる。
- ・1年次後期～2年次前期（地域探究）：「健康、教育、歴史文化、ビジネス、自然科学」の分野別に地域課題に関わるグループ探究を行う。テーマごとに専門家等からの指導を受け、2市1町での実践を通して課題を深める。7月に探究学習発表会を実施し公開する。
- ・2年次後期～3年次前期（未来探究）：各自の進路分野について現状と理想の差を埋める提案を個人探究で進める。テーマに応じて、大学や自治体、企業から情報収集し、SDGsの達成を意識した探究活動を行う。7月に探究学習発表会を実施し公開する。
- ・3年次後期（卒業論文）：個人探究の内容を論文形式でまとめ、卒業探究論文集を作成する。
 - すべて計画通り実施した。

●成果

- ・令和元年度には、1年次探究基礎で大学教授から探究技法の講義を受け、2年次は「産学官連携部会」を通して2市1町の方から地域課題についてレクチャーを受けるなど直接指導を受ける体制ができた。
- ・令和2年度より、単元編成を「探究基礎（1年次前半）」「地域探究（1～2年次）」「未来探究（2～3年次）」「卒業論文（3年次後半）」と学年またぎで行うものに変更した。学年によるばらつきやテーマの継続性担保という課題が解消されつつある。
- ・未来探究では、探究を通して自らの在り方生き方を考え進路につなげる流れができつつある。

●課題

- ・地域での実践を伴う探究は本校の特徴であり、ほぼすべての生徒が何らかの実践を行っているが、アクションが地域を動かす例は稀である。「探究活動に関わる地域関係者の変容」については、学校と地域が理念や目標を共有することと同時に、さらに深い関わりが生まれるよう、コーディネーターの確保・活用を含め検討する必要がある。

●計画と目標設定は適切だったか

- ・研究者や地域の関係者から直接指導を受けることで「探究の専門性や新規性の高まり」「探究活動の質の深まり」を目指すという仮説について、新規性があり、質の高い探究を行った生徒たちが多く生まれるゼミには偏りがあったことから、外部に頼るのではなく教員集団側への手だてが重要であったと考えられる。

●次年度以降の計画（何を活かし、何をやめるか）

- ・閑谷學の3年間は学年またぎの4つの大単元（探究基礎～卒業論文）構成を続行する。
- ・大学との連携については、学校として大学教員に授業実施を依頼することはしない。生徒が、必要に応じて直接連絡を取り、協力を求めることを推奨する。

（エ）各教科・科目等と連動する課外活動

【仮説】

各教科・科目での学びを生かし、総合的な探究の時間の情報収集や仮説検証の場として活用することで、生徒の視野が拡大し、地域関係者が課題を再認識できる。

●計画と実施状況

- ・これまで継続しているボランティア活動や地域との交流活動に加え、地域から要請のあった様々な活動に積極的に参加する。
 - バンクギャラリープロジェクト、ワケタウンシネマ、和気駅前イルミネーションなど、地域からの呼びかけに応じてプロジェクトに参加した。
- ・近隣高校等（他県の地域協働推進校を含む）の探究学習発表会等（オンライン開催も含む）に生徒を派遣する。
 - R1：16回、R2：19回、R3：22回、と各目標4回（教員のための派遣を含む目標値）を上回る回数の派遣をした。

●成果

- ・総合的な探究の時間のテーマに基づき、小学校や町内施設で自らイベント等を開催する生徒が多数生まれた。

●課題

- ・ボランティアや地域プロジェクトへの参加は、必ずしも総合的な探究の時間や教科科目と関連したものではない。参加・体験自体の価値はあり、結びつけるべきかどうかは検

討の余地がある。

●計画と目標設定は適切だったか

- ・地域でのプロジェクトに参加した生徒の感想等から、視野の拡大がみられる。視野が拡大するだけでなく、生徒が自分自身の良さや価値観に気づく機会であり、また、地域関係者が和気閑谷高校の良さに気づく機会となることへの視野が欠けていた。

●次年度以降の計画（何を活かし、何をやめるか）

- ・引き続き、地域からの要望に応えた活動や、外部の発表会等に積極的に参加する生徒を増やす。

（オ）（ア）～（エ）を支援する体制の構築

【仮説】

今後、主たる「地域」を和気町から2市1町に拡充することを想定したコンソーシアム（コミュニティ・スクールへ移行予定）を作り、多様な主体と協働する教育活動を、カリキュラム開発等専門家が支援職員、教職員や生徒とともに進める体制を構築することで、本研究開発終了後も学校と地域とが持続的に関わる経験とノウハウの蓄積が期待できる。

●計画と実施状況

- ・コンソーシアム（＝学校運営協議会）を年3回程度、小中高接続・産学官連携・高大接続の3部会を年3回程度開催する。
 - ほぼ計画通り実施した。
- また、各市町担当者等による連絡会を隔週程度開催し、本研究開発の目的・目標を踏まえながら連携先との連絡調整を行う。
 - 連絡会は実施できていない。
- ・管理機関においては、県内先進実践校との連絡協議会を実施し、先進的な高等学校の取組の成果を高校間で共有するとともに、フォーラムを開催する。
 - 県主催の連絡協議会、フォーラムともに各年1回実施した。
- ・指定最終年度のため、生徒による本事業の研究成果発表会（運営指導委員会と兼ねる）を公開する。
 - R4年2月1日に実施した。
- ・学校ホームページに本研究開発専用のサイトを開設し、情報発信を充実させる。
 - R1に開設し、研究開発の概要、研究報告書を掲載している。

●成果

- ・令和元年度よりコンソーシアムである学校運営協議会を設置し、岡山県立高等学校初のコミュニティ・スクールとなったことで、地域と協働した学校づくりの持続可能性が高まった。
- ・「地域協働探究」では、地域との関係づくりにおいてはカリキュラム開発等専門家が教職員とともにカリキュラム構築や授業実施をする体制が定着した。

●課題

- ・年3回の4つの会議と38名の外部委員は、学校規模に対して大きすぎる組織であった。
- ・コーディネーター（カリキュラム開発等専門家、地域協働学習実施支援員（支援職員）等）の位置づけや職務要件の整備、雇用の確保（資金確保）が課題である。

●計画と目標設定は適切だったか

- ・和気町から2市1町に広がりを持たせたことは、本校の取組を広域に知らせ、地域の人脈をつくるのに有効であった。
- ・より実効性のある組織にするためには、部会を再構築する必要がある。

●次年度以降の計画（何を活かし、何をやめるか）

- ・学校運営協議会：引き続き2市1町の関係者に委員を委嘱し、共に創る関係を深める。
- ・部会：3部会は終了し、必要に応じた部会を組織する。
- ・コーディネーター：和気町に地域おこし協力隊および地方創生加速化交付金の予算措置を要請し、配置を続行する計画である。

Ⅲ 定性データの分析

1 学校アンケート結果

本校の今後の取組、また、本校生徒の学校生活をより一層充実したものにするために、本校教職員、全校生徒、保護者に対し、11月下旬にアンケートの実施、集計を行った。以下、生徒、保護者、教職員のアンケート結果を示す。

学校生活への充実感を問う「No. 1（生徒）No. 1（保護者）No. 3（教職員）」の経年変化をみるとすべて伸長しており、生徒、保護者、教職員にとって、本校が過ごしやすい学校に近づいていることがうかがえる。また、いじめ予防と早期発見についての項目「No. 4（生徒）No. 5（保護者）No. 13（教職員）」も同様であり、学校が生徒にとって安心・安全な場になってきていることもうかがうことができる。

生徒個人に応じた指導や多面的評価について尋ねた「No. 6、7、8（生徒）No. 6、7、8（保護者）No. 16、17、18（教職員）」は生徒、教員の9割以上、保護者の約8割が肯定的評価をしており、生徒と教職員との学習活動に対する方向性がマッチしていると言える。

生徒の回答では、これまで低かった項目（No. 2、6、11、20）の肯定的数値が大幅に増え、過去最高値となった。これには、生徒の実態に即した課題の設定、端末の日常的活用（ICT教材の活用（ゲーム感覚での取り組みやすさ）、数学の反転学習（家庭学習を意識させる）、毎授業時の振り返りなど）、家庭学習が十分でない生徒への面談や具体的声かけの実施、様々な場面での褒める声かけの実施、部活動で指導できる教員が着任することによる活性化などが考えられる。教職員の観察から、「生徒は授業に落ち着いて取り組んでいる、課題の提出等に意欲が見られる、行動にメリハリが付いた、振り返りをすすんで行っている」など変化を感じることができた。

教職員の回答では、過去2年間は、新型コロナへの対応による新たな業務負担もあり、肯定的数値が下がったが、今年度は全般的に回復している。ただし、別途、全教職員のストレスチェック調査からは、全26項目中、職場の強み（上位5項目）として、「公正な人事評価、上司の公正な態度、個人の尊重、多様な労働者への対応、失敗を認める職場」となっており、全国平均値を大きく上回っている。一方、職場の弱み（下位5項目）は、「情緒的負担、仕事の量的負担、ワークセルフバランス（ネガティブ）、仕事の質的負担、役割葛藤」となっており、いずれも仕事の負担に関わるものである。仕事の負担や不安を、周りの人間関係・相互支援で支えているといった状況があり、仕事の進め方や情報共有を意識して改善を図りたい。

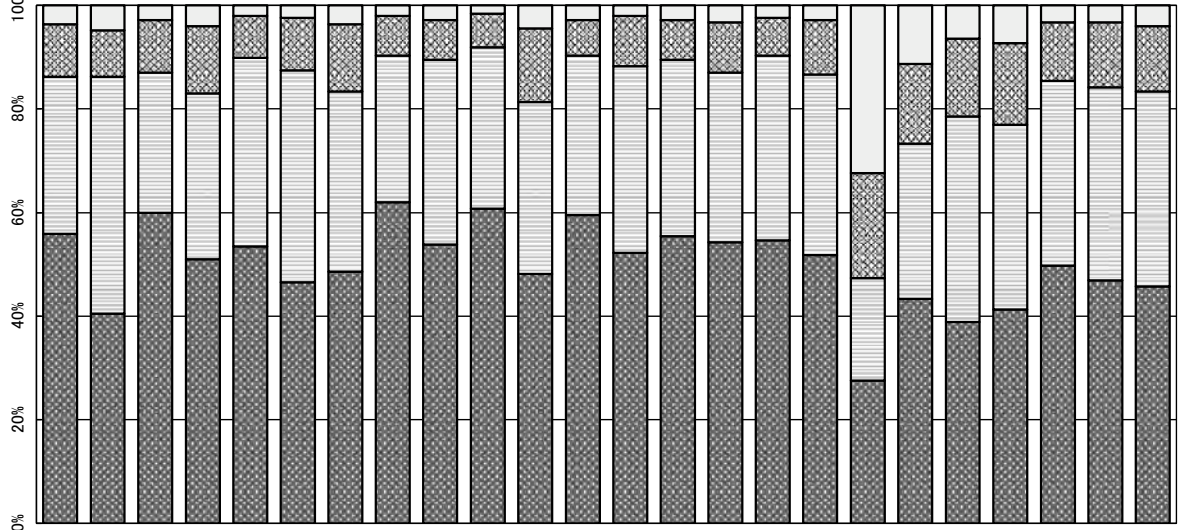
△…前年度より上がった
▼…前年度より下がった

R3学校アンケート回答(生徒)

1. よくあてはまる…+10点 2. ややあてはまる…+5点 3. あまりあてはまらない…-5点 4. まったくあてはまらない…-10点

回答数 = 248 294 323 319 335 368

No.	評価内容	回答(%)				R3	R2	R1	H30	H29	H28
		1	2	3	4						
1	充実した学校生活を送っている。	55.9	30.4	10.1	3.6	6.2△	4.8▼	5.0△	4.3▼	4.4▼	5.6
2	学校は生徒の思いをくみ取って教育活動を行っている。	40.5	45.7	8.9	4.9	5.4△	3.0▼	3.7△	3.0▼	3.1▼	3.8
3	学校は不審者情報の提供など生徒の安全対策を十分行っている。	59.9	27.1	10.1	2.8	6.6△	5.1▼	5.5△	4.3▼	5.5▼	6.1
4	学校ははじめの予防と早期発見に努め毅然とした対応で臨んでくれる。	51.0	32.0	13.0	4.0	5.6△	3.7-	3.7△	3.2▼	3.7▼	4.3
5	興味・関心・適性・進路に応じて科目を選択し勉強することができる。	53.4	36.4	8.1	2.0	6.6△	4.7△	4.5△	3.8▼	4.7▼	5.4
6	各授業内容は工夫されてわかりやすく学力向上に役立っている。	46.6	40.9	10.1	2.4	6.0△	3.2▼	3.8△	3.0▼	3.4▼	3.7
7	生徒一人ひとりに応じた教科指導を行っている。	48.6	34.8	13.0	3.6	5.6△	3.1▼	3.3△	2.5△	2.4▼	2.5
8	考査以外にも学習に向けた努力や姿勢等により多面的に評価してくれている。	61.9	28.3	7.7	2.0	7.0△	5.1▼	5.3△	4.8▼	5.1-	5.1
9	基本的な生活習慣を確立するための指導をしてきている。	53.8	35.6	7.7	2.8	6.5△	4.4▼	4.9△	4.6△	4.5▼	5.2
10	校則・交通ルール・マナー等に関する指導をしてきている。	60.7	31.2	6.5	1.6	7.1△	5.0▼	5.5△	5.2▼	5.4▼	6.1
11	部活動が活発で充実した高校生活になるように指導してくれている。	48.2	33.2	14.2	4.5	5.3△	3.0▼	3.9△	3.4-	3.4▼	4.1
12	学校行事やボランティア活動などを通して充実感を味わうことが出来る。	59.5	30.8	6.9	2.8	6.9△	5.1-	5.1△	4.5-	4.5▼	4.8
13	働くことの意味や望ましい生き方について考える様々な機会や場面が設けられている。	52.2	36.0	9.7	2.0	6.3△	4.2▼	4.6△	4.1△	3.9▼	4.6
14	学習指導や個人面談・補講や校外模試など進路保障につながる活動が充実している。	55.5	34.0	7.7	2.8	6.6△	4.4▼	5.2△	4.5▼	4.7▼	5.1
15	進路決定に向けたきめ細やかな情報提供を行っている。	54.3	32.8	9.7	3.2	6.3△	4.5▼	5.1△	4.1▼	4.6-	4.6
16	健康に関する調査・検診をもとに健康管理ができるよう指導してくれている。	54.7	35.6	7.3	2.4	6.6△	4.4▼	4.9△	4.4△	4.3▼	4.7
17	美化意識をもって清掃を行い、校内の環境美化に努めている。	51.8	34.8	10.5	2.8	6.1△	4.3▼	5.1△	3.9▼	4.5▼	4.8
18	図書館をよく利用し読書の楽しさと出会える場となっている。	27.5	19.8	20.2	32.4	-0.5△	-1.1▼	0.4▼	0.6△	-1.1▼	-0.1
19	「朝の読書」などにより読書の体験が深まってきた。	43.3	30.0	15.4	11.3	3.9△	3.0▼	3.7△	3.6▼	4.2▼	4.7
20	学校は悩みを相談する機会を十分作ってくれている。	38.9	39.7	15.0	6.5	4.5△	2.7▼	3.3△	2.6△	1.2▼	2.2
21	教育相談に関する情報やスクールカウンセラーの利用方法が適切に提供されている。	41.3	35.6	15.8	7.3	4.4△	2.5▼	3.2△	2.7△	2.3▼	2.9
22	人権学習HRや授業などにより他者を思いやり人権意識を高めるための指導や情報	49.8	35.6	11.3	3.2	5.9△	4.1▼	4.2△	3.7▼	3.9▼	4.7
23	地域の施設を利用したり校外の講師から学ぶ機会がより深まっている。	47.0	37.2	12.6	3.2	5.6△	3.8▼	4.5△	3.6▼	4.1▼	4.3
24	学年目標をよく理解しその実現に向けて努力した。	45.7	37.7	12.6	4.0	5.4△	4.5△	4.1△	3.8▼	4.0▼	4.5



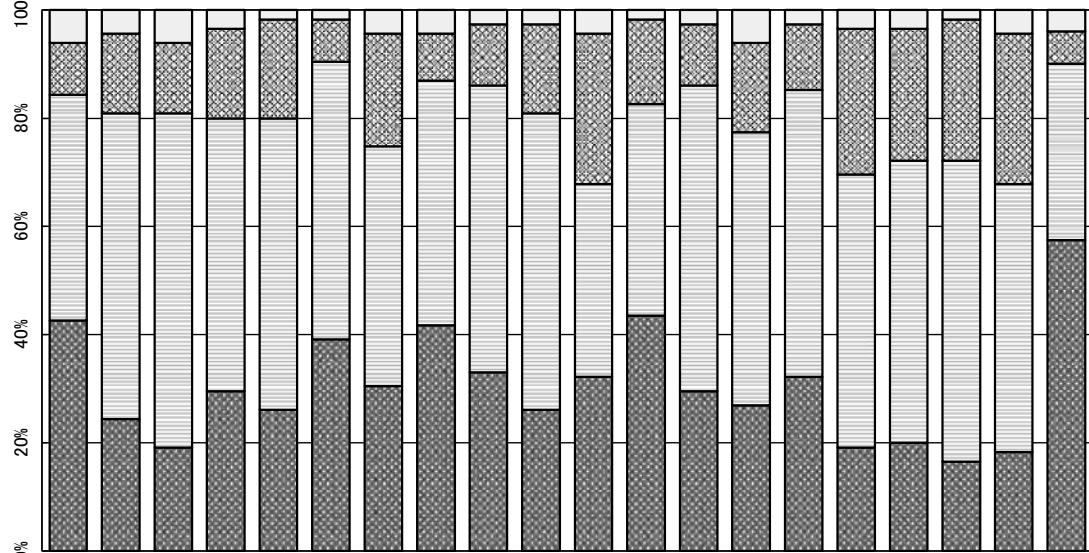
R3学校アンケート回答(保護者)

△…前年度よりも上がった
▼…前年度よりも下がった

得点は 1.よくあてはまる…+10点 2.ややあてはまる…+5点 3.あまりあてはまらない…-5点 4.まったくあてはまらない…-10点 と点数化

回答数= 115 171 237 235 245 232 240

No.	評価内容	回答(%)				R3	R2	R1	H30	H29	H28	H27
		1	2	3	4							
1	生徒は充実した学校生活を送っている。	42.6	41.7	9.6	6.1	5.3△	4.9▼	5.6△	5.0▼	5.3△	5.2▼	6.1
2	学校の方針や教育活動についてさまざまな情報提供がなされている。	24.3	56.5	14.8	4.3	4.1▼	4.8△	4.6△	4.5△	4.2△	3.6▼	4.2
3	学校は保護者や生徒の思いをくみ取って教育活動を行うよう努めている。	19.1	61.7	13.0	6.1	3.7▼	4.3▼	4.5△	4.3△	4.1△	3.6▼	4.0
4	学校は不審者情報の提供など生徒の安全対策を十分行っている。	29.6	50.4	16.5	3.5	4.3▼	4.9△	4.5△	3.8△	3.2△	2.3▼	2.7
5	学校はいじめの予防と早期発見に努め毅然とした対応で臨んでいる。	26.1	53.9	18.3	1.7	4.2△	3.0▼	3.5△	3.0 -	3.0△	3.0△	2.9
6	生徒は各自の興味・関心・適性・進路に応じた科目を選択することができる。	39.1	51.3	7.8	1.7	5.9△	5.4▼	5.7△	5.5△	5.2▼	5.3▼	5.7
7	生徒一人ひとりに応じた教科指導が行われている。	30.4	44.3	20.9	4.3	3.8△	3.7△	3.5 -	3.5△	2.8▼	2.9△	2.7
8	テスト以外にも学習に向けた努力や提出物等により多面的に評価している。	41.7	45.2	8.7	4.3	5.6▼	5.7△	5.6 -	5.6△	5.2△	4.8▼	5.0
9	学校は生徒の基本的な生活習慣の確立に努めている。	33.0	53.0	11.3	2.6	5.1△	4.1▼	4.2▼	4.4△	4.2△	4.0▼	4.6
10	生徒の規範意識を育てる指導が十分行われている。	26.1	54.8	16.5	2.6	4.3△	3.4▼	4.0▼	4.1△	3.9△	3.5▼	3.6
11	部活動が活発で充実した高校生活になるように指導している。	32.2	35.7	27.8	4.3	3.2△	2.6▼	2.9▼	3.3△	2.3▼	2.6▼	3.6
12	学校行事やボランティア活動など生徒が活躍する場が充実している。	43.5	39.1	15.7	1.7	5.3▼	6.2△	6.0△	5.8 -	5.8△	5.6▼	6.1
13	学習指導や個人面談・補講や校外模試などは生徒の進路保障につながっている。	29.6	56.5	11.3	2.6	5.0 -	5.0△	4.5▼	4.6△	4.0▼	4.5▼	4.8
14	学校は進路決定に向けたきめ細やかな情報提供を行っている。	27.0	50.4	16.5	6.1	3.8▼	4.1△	3.7△	3.5△	3.3△	3.2▼	4.1
15	校内の清掃が行き届いており学習環境が整っている。	32.2	53.0	12.2	2.6	5.0△	4.4△	4.3▼	4.5△	4.1△	3.7▼	3.8
16	学校は生徒の読書習慣が向上するよう努めている。	19.1	50.4	27.0	3.5	2.7△	2.1▼	3.0▼	3.2△	3.1△	2.6▼	2.8
17	学校は保護者の話や相談に対応する機会を十分作っている。	20.0	52.2	24.3	3.5	3.0▼	4.1△	3.5△	2.9△	2.6 -	2.6▼	2.9
18	教育相談に関する情報提供やスクールカウンセラー等の体制が充実している。	16.5	55.7	26.1	1.7	3.0▼	3.7▼	4.2△	3.3▼	3.8△	3.4▼	3.5
19	学校は保護者の人権意識啓発のための研修機会や情報の提供を十分に行っている。	18.3	49.6	27.8	4.3	2.5▼	3.1▼	4.5△	2.9▼	3.1▼	3.5▼	3.8
20	学校は緊急連絡方法として39メーを十分活用している。	57.4	32.7	5.9	4.0	6.7△	6.5▼	6.8△	6.7			



R3学校アンケート回答(教職員)

△…前年度よりも上がった
▼…前年度よりも下がった

1. よくあてはまる…+10点 2. ややあてはまる…+5点 3. あまりあてはまらない…-5点 4. まったくあてはまらない…-10点

回答数 = 34 37 42 39 35 35

No.	評価内容	回答(%)				0%	20%	40%	60%	80%	100%	R3	R2	R1	H30	H29	H28
		1	2	3	4												
1	学校のあり方や教育方針について共通理解がある。(学校経営計画に基づいた教育活動を行っている。)	32.4	47.1	17.6	2.9							4.4▼	5.0▼	6.9△	6.0-	6.0△	4.9
2	学校の特色を明確にし、それを生かし、発展させるように日々の教育活動を行っている。	47.1	35.3	14.7	2.9							5.4-	5.4▼	7.6△	7.2△	6.6△	5.0
3	この学校で教育することにより、充実感や満足感を持つことができている。	32.4	41.2	20.6	5.9							3.7△	1.8▼	2.1▼	3.7△	2.3△	2.2
4	さまざまな機会をとらえて、学校の方針や具体的な活動について情報を提供している。	41.2	58.8	0.0	0.0							7.1△	5.9▼	6.4▼	7.3△	6.4△	4.9
5	保護者や生徒の思いをくみ取って、教育活動を行うよう努めている。	35.3	52.9	5.9	5.9							5.3△	5.1-	5.1▼	5.9△	5.3△	4.6
6	教育活動が計画的に行われ、成果と課題が次年度に生かされている。	14.7	55.9	20.6	8.8							2.4△	1.8▼	2.7▼	3.2△	3.1△	1.9
7	各分掌や各学年の間の連携が円滑で、それぞれが有機的に機能している。	26.5	55.9	14.7	2.9							4.4▼	5.0△	3.5▼	4.5△	3.0△	2.0
8	各分掌や各学年の優れた取り組みを共有し、教師集団としての力量が向上している。	26.5	47.1	20.6	5.9							3.4▼	5.3▼	6.0▼	6.3△	5.3△	2.4
9	不審者対策等に力をいれている。	23.5	58.8	14.7	2.9							4.3△	2.8▼	3.2▼	4.2▼	4.9△	4.7
10	セクハラや体罰を防止する体制がある。	41.2	50.0	8.8	0.0							6.2▼	7.0▼	7.3△	6.0△	5.0▼	5.7
11	台風・火災・地震などの災害時の危機管理体制が明確である。	32.4	64.7	2.9	0.0							6.3▼	6.5△	5.5▼	5.6△	4.0▼	6.4
12	個人情報の保護に配慮し業務を行っている。	67.6	32.4	0.0	0.0							8.4△	7.0▼	7.5△	7.2△	7.0△	6.4
13	いじめの予防と早期発見に努め、毅然とした対応で臨んでいる。	64.7	32.4	0.0	2.9							7.8△	7.2▼	7.3△	6.7▼	7.0△	6.4
14	生徒の興味、関心、適性、進路に応じて履修できる多様な科目を設定している。	50.0	35.3	14.7	0.0							6.0▼	6.1△	5.5-	5.5▼	5.9▼	6.0
15	授業内容の充実、改善に努めており、成果が感じられる。	52.9	35.3	8.8	2.9							6.3△	5.5▼	6.2△	5.6△	5.3▼	5.7
16	生徒一人一人の個性に応じたきめ細かな教科指導を心がけている。	50.0	41.2	8.8	0.0							6.6△	5.5▼	6.0▼	6.2△	5.1▼	5.6
17	授業の指導内容や方法について、教員相互の研修を積極的に行っている。	73.5	26.5	0.0	0.0							8.7△	8.2△	8.1△	7.3-	7.3△	5.1
18	学習の評価では、テストの得点だけでなく、興味、関心、意欲、提出物などにも配慮している。	70.6	26.5	2.9	0.0							8.2-	8.2▼	8.3△	8.2▼	8.6△	7.9
19	生徒の遅刻、早退、欠席、授業態度やあいさつの習慣づけなど基本的な生活習慣の確立に努めている。	50.0	44.1	5.9	0.0							6.9△	6.4△	4.9▼	6.7-	6.7△	5.1
20	学年集会や全校集会、講演会などを利用し、校則、交通ルール、マナーの重要性を話し、生徒の規範意識を育てている。	50.0	44.1	5.9	0.0							6.9△	6.1△	5.5▼	6.7▼	7.3△	4.3
21	部活動が活発になるようにさまざまな面で支援している。	29.4	44.1	20.6	5.9							3.5△	1.7▼	3.1▼	3.3▼	3.4▼	4.0
22	生徒会活動や学校行事、ボランティア活動を通して、生徒が人間的に成長したり活躍できる場面を作り出すよう工夫している。	55.9	41.2	2.9	0.0							7.5△	7.4△	6.9△	6.7▼	7.6△	7.0
23	働くことの意義や望ましい生き方について様々な場面で生徒に考えさせる指導を行っている。	50.0	38.2	8.8	2.9							6.2△	5.3△	4.9▼	5.8△	4.7▼	5.1
24	日々の学習指導や個人面談、補講や校外模試など生徒の進路保障につながる活動が充実している。	47.1	41.2	8.8	2.9							6.0▼	6.1△	4.8▼	5.3▼	5.7△	5.1
25	生徒の希望する上級学校や企業について研究し、進路決定に向けての情報の提供を的確に行っている。	38.2	58.8	2.9	0.0							6.6△	5.7△	3.9▼	5.8△	4.9▼	5.6
26	健康に関することについて、調査・検診を行い健康管理ができるよう指導している。	64.7	32.4	2.9	0.0							7.9△	6.9△	6.3-	6.3△	6.1△	5.6
27	施設・設備は定期的に安全点検を行い、破損箇所は適切に整備している。	73.5	23.5	0.0	2.9							8.2△	7.3△	7.1△	6.3▼	7.1△	6.1
28	各クラスの清掃担当場所は常にきれいにされており、学習環境も整っている。	29.4	50.0	17.6	2.9							4.3△	1.6△	0.6▼	2.2△	1.7△	0.7
29	図書館が生徒の読書活動を広げ、読書体験を深める場となっている。	35.3	41.2	17.6	5.9							4.1-	4.1△	1.9▼	2.4△	1.4-	1.4
30	「朝の読書」など読書活動が成果を挙げている。	26.5	47.1	20.6	5.9							3.4△	2.1△	1.7▼	2.4▼	3.9△	3.6
31	図書館の設備や蔵書は適当である。	41.2	47.1	11.8	0.0							5.9△	5.7△	4.5△	3.8△	2.6▼	3.3
32	保護者や生徒の相談に応じる際に必要に応じて教員間の連携がとれている。	61.8	35.3	2.9	0.0							7.8▼	8.0-	8.0△	6.9△	6.7△	4.7
33	教育相談に関する情報を保護者、生徒、教員に対して広報している。	61.8	38.2	0.0	0.0							8.1△	6.9▼	7.1△	6.3▼	6.4△	4.4
34	人権意識を高めるための機会や情報の提供が充分に行われている。	41.2	55.9	2.9	0.0							6.8△	5.9△	5.2▼	5.8△	5.0△	3.9
35	教員・生徒・保護者がともに、差別や偏見を許さない態度を身につけている。	50.0	44.1	2.9	2.9							6.8△	5.0△	4.8▼	5.0△	4.7-	4.7
36	地域の施設や人材を活用して、魅力的な教育活動につとめている。	58.8	38.2	2.9	0.0							7.6△	7.3▼	7.4△	6.2▼	6.4△	5.4
37	クラス・学年の実情に応じた適切な集団指導がなされ、学年目標に向かって生徒が成長した。	44.1	47.1	5.9	2.9							6.2△	4.6△	3.8▼	4.4▼	4.7△	2.3
38	普通科進路希望別コース制や資格取得推進など、生徒の進路表現に向けた体制が効果を上げている。	26.5	58.8	14.7	0.0							4.9△	1.8▼	2.9▼	4.9△	3.0△	1.6
39	39メールを活用し、緊急時に保護者に対して迅速に的確な情報を提供している。	67.6	32.4	0.0	0.0							8.4▼	9.1△	8.1-			

2 7つのチカラアンケート結果

今年度においても、本校ではすべての教育活動をとおり、7つのチカラ（「自分を理解する力」「職業とつなぐチカラ」「考える力」「行動する力」「コミュニケーション力」「チームワーク力」「自立する力」）の育成を目指した。ただし、「本校における教育活動」と「7つのチカラ」とのつながりについて教員・生徒との共有が不十分であり、7つのチカラの育成が日々の活動の中で十分に意識化されていないという現状を改善するまでには至らなかった。しかし、そのような中でも、今年度は昨年度以上に、各授業の中で生徒一人一台端末を活用した「主体的・対話的で深い学び」の実践に取り組み、また、教科等横断的な視点から、各教科での見方、考え方を関連付けるなど、探究的な学びを推進することをとおして、7つのチカラの育成につなげることができた。

●調査とその推移について

今年度、7つのチカラの調査を9月に実施した。また、この調査での結果は、本校の教育活動全般における探究的な取組を確認していく一つの指標とした。

アンケートの中で、特に推移のあったもの（3年次生の1年次からのもの）として、質問項目の「10. やるべきことや問題があるとき、今の自分の状況を分析する」「38. 実行した後は、それが確実にできたかを見直し、改善する」「4. より良い解決策を見つけるために、できるだけ多くの情報を集める」「5. 自分の考えや気持ちをうまく表現できる」

「41. 人にたいして、自分から働きかけて、理解や協力を得る」は、概ね自らの働きかけによるものであり、これらの伸びは、日々の本校での学校生活をはじめ、地域との関わりをベースとした「地域学」での主体的（能動的）な学びが大きく影響しているものと思われる。また、1年次生、2年次生のデータについても、3年次生の1年次、2年次での値に近く、今後、同じように推移していくものと思われる。

●まとめ

以上のことから本校の学習観と実践の方向性は、間違っていないように思われる。しかし、それが、成果（学力向上等）として表れていないところに、今後の、本校における課題があるように思われる。

今後、新学習指導要領を踏まえた上でのルーブリックの作成など、生徒が主体的に学びを深められる環境整備を充実させていかなければならない。そのことをとおして、生徒個々が主体的に学習などに取り組む時間も増え、学力向上につながっていくものと考えられる。

更に、本校における「7つのチカラ」を検証し、本校で「育成したい力」は何なのかを明確にすることをとおして、生徒と教職員が共に学びを作り上げていくことのできる学校を目指していきたい。

7つのチカラ アンケート集計 (R3. 9)

4. とてもあてはまる 3. 少しあてはまる 2. あまりあてはまらない 1. ほとんどあてはまらない の平均点

	R3.9	R2.9	R3.9	R1.7	R2.2	R2.9	R3.9
1. 自分を理解するチカラ	1年	1年	2年	1年	1年	2年	3年
1 自分の得意なことがわかっている	3.18	3.08	2.96	3.15	3.05	3.10	3.13
8 自分の好きなことがわかっている	3.41	3.35	3.25	3.44	3.36	3.35	3.40
15 自分の好きなことは、将来の職業につながっていくと思う	3.15	3.03	2.90	3.24	3.25	3.11	3.09
22 将来の目標がある	3.16	2.98	2.85	3.03	3.02	3.03	3.14
29 自分はどんな仕事に興味があるかわかっている	3.21	3.14	2.82	3.16	3.15	3.16	3.14
36 職業を選ぶとき、重視したいことがわかっている	3.11	2.97	2.94	3.12	3.06	3.04	3.21
43 働く上で、何を大切にしなければならぬかわかっている	3.25	3.11	2.92	3.22	3.17	3.03	3.19
50 これからの人生を生き抜いていく上で、自分が大切にしたいことがわかっている	3.06	3.24	2.92	3.26	3.14	3.08	3.22
	3.19	3.11	2.95	3.20	3.15	3.11	3.19
2. 職業とつなぐチカラ	1年	1年	2年	1年	1年	2年	3年
2 いろいろな職業について知っている	2.61	2.43	2.28	2.57	2.45	2.48	2.77
9 いろいろな職業について、それぞれどのような進路をとれば、その職業につけるか知っている	2.76	2.57	2.51	2.78	2.56	2.69	2.95
16 いろいろな職業について、それぞれにどのような能力や知識が必要か知っている	2.95	2.84	2.54	2.81	2.71	2.73	2.99
23 いろいろな職業が、それぞれ社会でどのように役立っているか知っている	2.98	2.92	2.63	2.90	2.85	2.79	2.95
30 インターンシップなどの職業体験は、自分の職業を選ぶ上でためになると思う	3.43	3.23	3.18	3.16	3.15	3.21	3.20
37 職業についている人の話を聞いたことで、仕事の大変さがわかってきたと思う	3.18	3.05	3.09	3.18	3.03	3.20	3.08
44 人の話や経験を通して、仕事のやりがいや楽しさについて、わかってきたと思う	3.10	2.98	2.96	3.18	3.05	3.00	3.11
51 自分が目標とする職業につくために、今のような勉強や準備をしなければならぬかわかっている	3.13	2.92	2.76	3.13	3.09	2.97	3.12
	3.02	2.87	2.74	2.96	2.86	2.88	3.02
3. 考えるチカラ	1年	1年	2年	1年	1年	2年	3年
3 困ったときには、どこに問題があるか見つけようとする	3.16	2.93	2.90	2.98	2.86	2.94	3.05
10 やるべきことや問題があるとき、今の自分の状況を分析する	2.85	2.80	2.68	2.93	2.80	2.80	3.09
17 課題を解決するための方法を、あれこれと考える	2.94	2.82	2.68	3.03	2.89	2.84	3.12
24 何かを選択するときには、その結果がどうなるかを推測する	2.93	2.78	2.73	2.98	2.84	2.88	3.03
31 何かをするときには、優先順位をつけてとりかかるとする	3.18	3.05	2.99	3.21	3.05	3.15	3.15
38 実行した後は、それが確実にできたかを見直し、改善する	2.99	2.65	2.65	2.97	2.93	2.96	3.08
45 自分が選択したことに責任を持つ	3.31	3.25	3.11	3.26	3.21	3.20	3.23
52 新しいアイデアをいろいろ考える	3.00	2.76	2.63	3.00	2.98	2.88	2.94
	3.04	2.88	2.80	3.04	2.94	2.95	3.09
4. 行動するチカラ	1年	1年	2年	1年	1年	2年	3年
4 より良い解決策を見つけるために、できるだけ多くの情報を集める	3.06	2.92	2.76	2.91	2.75	2.88	3.08
11 何かを始める前には、必ず計画を立てる	2.80	2.63	2.38	2.84	2.78	2.69	2.88
18 自分が立てた計画を実行する	2.95	2.65	2.57	2.93	2.82	2.79	2.88
25 何かをしようと思ったら、すぐにとりかかるとする	2.89	2.77	2.49	2.95	2.74	2.88	3.04
32 問題を解決するために、できることから片付けていく	3.23	3.17	2.97	3.17	3.05	3.13	3.16
39 さまざまなことに、自分から進んで取り組む	2.99	2.80	2.70	3.00	2.88	2.94	2.96
46 新しいことに、積極的に挑戦する	3.04	2.95	2.78	3.03	2.99	3.02	3.02
53 失敗や困難に直面しても、最後まであきらめず、ねばり強く努力する	2.90	2.95	2.76	3.07	2.96	2.91	3.03
	2.98	2.85	2.68	2.99	2.87	2.90	3.01
5. コミュニケーション力	1年	1年	2年	1年	1年	2年	3年
5 自分の考えや気持ちをうまく表現できる	2.72	2.79	2.44	3.01	2.80	2.66	3.01
12 自分から積極的に話しかける	2.67	2.62	2.58	2.96	2.87	2.68	2.98
19 相手の伝えたいことを理解するために、いろいろな質問をする	2.95	2.80	2.68	3.02	2.95	2.98	3.03
26 話を聴くときは、その人の気持ちをわかってもらう	3.27	3.27	3.10	3.29	3.15	3.28	3.21
33 相手の立場になって考えることができる	3.19	3.30	3.01	3.27	3.21	3.29	3.21
40 人のためになることを進んで行う	3.02	3.09	2.94	3.14	3.00	2.98	3.07
47 周囲の状況を見て、ふさわしい言葉づかいや態度・行動をとる	3.22	3.17	2.95	3.29	3.29	3.26	3.22
54 人に会ったときは、きちんと挨拶する	3.38	3.34	3.05	3.35	3.36	3.43	3.30
	3.05	3.05	2.84	3.17	3.08	3.07	3.13
6. チームワーク力	1年	1年	2年	1年	1年	2年	3年
6 人の意見を聴いて、それを尊重する	3.23	3.29	3.15	3.37	3.25	3.34	3.20
13 グループ活動のときに、進んでリーダーシップをとることができる	2.55	2.39	2.23	2.48	2.55	2.29	2.69
20 グループ活動のときに、自分から発言したり、意見を述べる	2.82	2.66	2.38	2.90	2.80	2.62	2.97
27 グループ活動のときに、どんな役割が必要かを考えて、自分の役割を選ぶ	2.96	2.94	2.76	3.08	2.91	2.97	3.09
34 自分の伝えたいことを、相手がわかるように伝える	3.02	3.01	2.71	3.13	3.05	3.04	3.11
41 人に対して、自分から働きかけて、理解や協力を得る	3.00	2.90	2.71	3.07	2.93	2.94	3.03
48 自分の果たすべき役割に、責任を持つ	3.27	3.24	2.96	3.30	3.20	3.19	3.21
55 人と協力して行動する	3.30	3.29	3.06	3.39	3.27	3.33	3.24
	3.02	2.96	2.75	3.09	2.99	2.96	3.07
7. 自立するチカラ	1年	1年	2年	1年	1年	2年	3年
7 うまく気分転換して、気持ちを切り替える	3.05	2.91	2.91	3.27	3.08	2.95	3.06
14 困ったことがあるとき、信頼できる人に相談する	3.17	3.39	3.18	3.29	3.27	3.15	3.16
21 自分がどんな人生を送りたいのか、真剣に考えたことがある	3.13	2.97	2.83	3.09	2.95	2.89	3.12
28 将来どんなことにお金が必要になるか、考えたことがある	3.29	3.07	3.01	3.13	2.96	3.21	3.14
35 将来、自分の役に立つ資格について知っている	2.81	2.79	2.67	2.85	2.76	2.80	3.10
42 社会人としてのマナーを知っている	3.29	3.23	2.97	3.16	3.17	3.11	3.17
49 約束やルールをしっかり守る	3.33	3.36	3.16	3.29	3.27	3.35	3.30
56 将来のことを考えて準備する	3.08	2.92	2.77	3.16	2.99	3.08	3.08
	3.14	3.08	2.94	3.16	3.06	3.07	3.14
8. 本校独自	1年	1年	2年	1年	1年	2年	3年
57 学校生活に満足している	3.06	2.89	2.51	3.20	2.95	2.82	2.98
58 総合的な学習の時間（関谷学）では、将来社会に出て行く上で必要な力が身についている	3.04	2.96	2.68	3.05	2.89	2.74	3.02
59 自分の地元を誇りに思い、文化・伝統を大切にしている	3.15	2.92	2.82	3.11	2.90	2.82	3.01
60 自分の考えと異なる意見も尊重し、公平な立場で聴いている	3.13	3.19	3.14	3.28	3.20	3.23	3.31

7つのチカラ アンケート集計結果 学年別推移

4. とてもあてはまる 3. 少しあてはまる 2. あまりあてはまらない 1. ほとんどあてはまらない の平均点

	R3.9	R2.9	R3.9	R1.7	R2.2	R2.9	R3.9
	1年	1年	2年	1年	1年	2年	3年
1. 自分を理解するチカラ	3.2	3.1	2.9	3.2	3.1	3.1	3.2
2. 職業とつなぐチカラ	3.0	2.9	2.7	3.0	2.9	2.9	3.0
3. 考えるチカラ	3.0	2.9	2.8	3.0	2.9	3.0	3.1
4. 行動するチカラ	3.0	2.9	2.7	3.0	2.9	2.9	3.0
5. コミュニケーション力	3.1	3.0	2.8	3.2	3.1	3.1	3.1
6. チームワーク力	3.0	3.0	2.7	3.1	3.0	3.0	3.1
7. 自立するチカラ	3.1	3.1	2.9	3.2	3.1	3.1	3.1

